

令和元年度

# 森林環境教育・木育活動事例集

三重県 





## はじめに

三重県では、平成26年4月から「みえ森と緑の県民税」を導入し、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めています。

これまでも、三重の森林づくり基本計画に基づき、森林環境教育の機会の増大を図ってきたところですが、この税の導入以降は、森林環境教育・木育の推進により一層注力して取り組んでいるところです。

この「森林環境教育・木育活動事例集」は、「みえ森と緑の県民税」を活用して毎年発行しているものです。

県内の小中学校などで実施された森林環境教育・木育の活動事例をまとめ、広く周知し、今後の活動の参考としていただくことを目的としています。

編集は、「みえ森と緑の県民税」により平成28年4月から三重県が設置・運営している、「みえ森づくりサポートセンター」が行いました。

「みえ森づくりサポートセンター」は、津市白山町の三重県林業研究所内にあり、森づくり活動や森林環境教育・木育活動などの総合サポートを行っています。

森林環境教育・木育に取り組まれる皆様におかれましては、当センターが用意している、こうした教育活動のコーディネート、指導者の紹介、出前授業などのメニューをご活用くださいましたら幸いです。

この事例集に関するお問い合わせや、森林環境教育・木育のご相談は、「みえ森づくりサポートセンター」へご連絡ください。

結びに、本事例集の発行にあたり、活動事例をご提供くださいました皆様方に厚く御礼申し上げます。

令和2年3月 三重県 農林水産部 みどり共生推進課

### 「森林環境教育」とは

「森林内での様々な体験活動等を通じて、森林と人々の生活や環境との関係についての理解と関心を深める」取組  
(令和元年版 森林・林業白書)

### 「木育」とは

「子どもから大人までを対象に、木材や木製品とのふれあいを通じて木材への親しみや木の文化への理解を深めて、木材の良さや利用の意義を学んでもらう」取組  
(令和元年版 森林・林業白書)

「森林環境教育・木育」の取り組み方の例

普段の授業や総合学習  
遠足やキャンプ、宿泊体験  
といった行事など

+

森林の持つ様々な  
はたらきについての学習  
森林資源(木材など)を  
利用した体験活動など

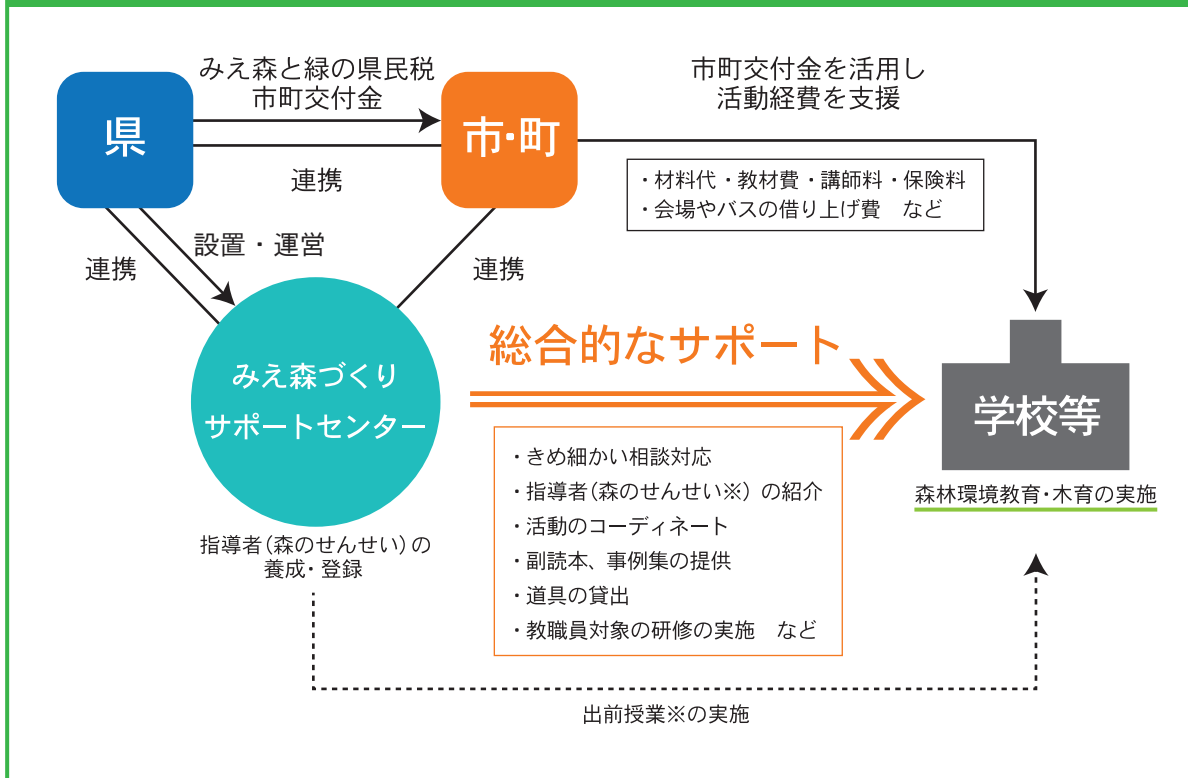
=

森林環境教育  
木育

# 「みえ森と緑の県民税」を活用した森林環境教育・木育について

「みえ森と緑の県民税」では、市町が地域の实情に応じて創意工夫して税の導入目的に沿った施策を展開できるように、一定の財源を市町に交付する市町交付金制度を設けており、市町が小中学校などでの森林環境教育・木育に活用することができます。

## みえ森と緑の県民税を活用した森林環境教育・木育実施の流れ



## 取組み事例

### ①学校で実施できる事例

- ・ 森のはたらきなどについての座学
- ・ クラフト体験や木工工作
- ・ 校庭の樹木の名札付けや自然観察
- ・ 学校林での林業作業体験 など

### ②校外で実施できる事例

- ・ 県民の森や森林公園での森林体験
- ・ 宿泊を伴う体験活動での森林学習
- ・ 遠足での森林体験
- ・ 製材所等への社会見学 など

### ※森のせんせい

三重県では、学校や地域で森林環境教育・木育を行える方を「森のせんせい」として登録し、学校などに情報提供しています。情報の一部はホームページで公開しています。

### ※出前授業

市町交付金事業の対象外となる学校については、サポートセンターが森林環境教育・木育の出前授業に伺います。詳しくはお問い合わせください。

※年間10校程度を予定

# 目 次

1. ふるさとの森とともに いなべ市立阿下喜 <sup>あげき</sup> 小学校	5
2. 森林・林業の社会見学 ～亀山の森林・林業～ 亀山市立亀山西小学校、亀山市立川崎小学校	6
3. 木のおもちゃで遊んで、作って、学んで！ 木に親しみ、木を楽しもう！ 津市立修成小学校、津市立南立誠小学校、津市立北立誠小学校	7
4. 森のはたらきについて学ぼう！ 津市立高茶屋小学校	9
5. 三重の森林と私たちの暮らし 津市立誠之小学校	10
6. マイトラリーを作ろう ～マイスプーンを作ろう～ 大台町立三瀬谷小学校	11
7. 木と仲よくなろう！ 玉城町立田丸小学校	12
8. 木の流れを追って 玉城町立有田 <sup>うだ</sup> 小学校	13
9. 木にさわってゲームを楽しもう！ 玉城町立外城田 <sup>ときだ</sup> 小学校	14
10. 木の枝でつくってみよう！ 玉城町立下外城田 <sup>しもときだ</sup> 小学校	15
11. もりのはたらきを知り、木で作ってみよう！ 南伊勢町立南島東小学校、南伊勢町立南島西小学校	16
12. 木のあたたかみを感じよう ～カホン作り～ 志摩市立東海小学校	17



13. 森のめぐみをいただこう ～しいたけのきんうち～ 伊賀市立成和西小学校	18
14. 木のペンダント作りと森のゆうえんち 伊賀市立三訪 <small>みわ</small> 小学校	19
15. 学校林わくわくプロジェクト ～学校林を探検しよう～ 名張市立薦原 <small>こもはら</small> 小学校	20
16. 森林のはたらきを知ろう・県産材を使おう ～マイ箸作り体験～ 津市立南が丘中学校	21
17. 中学生職場体験学習 わくわくワーク 松阪市立中部中学校	22
18. 専門高校における林業体験 ①VRによる林業体験 ②高性能林業機械操作体験 三重県立久居農林高等学校環境保全コース	23
19. 「林産物利用」での取り組み2019 ～大台町の林産物利用について～ 三重県立昴学園高等学校	24
20. 「木のよさ」を知ろう ～三重の森林について考える～ 三重大学教育学部附属小学校	25
21. 旧宮川村から地域を考える 学校法人三重中学校・三重高等学校	26
22. 鳥羽市「木育教室」 鳥羽市立かがみうら保育所、鳥羽市立相差保育所	27
23. みて、さわって、森のわくわく体験事業 名張市立錦生 <small>にしきお</small> 保育所、名張市立赤目保育所、名張市立桔梗南幼稚園 名張市立大屋戸 <small>おやど</small> 保育所、名張市立薦原 <small>こもはら</small> 保育所、名張市立名張幼稚園	28
24. 木について知ろう 桑名市ひまわり学童クラブ	29

# 01

## ふるさとの森とともに

いなべ市立阿<sup>あげき</sup>下喜小学校



**5月 森の健康診断（5年生）**  
100㎡あたりの木の本数、太さ、高さから、森の混み具合を判定します。判定の結果、混み合っていて不健康な森であることが判明しました。



**12月 岐阜県立森林文化アカデミーでの自然体験活動（5～6年生）**  
森の中にある木を使って、ブランコを作ったり、木で楽器を作ったりしました。まき割り、たき火も体験しました。自分たちで作った遊具での遊びは最高でした。



**1月 学習発表会（6年生）**  
里山学習について、保護者、地域へ取組を発信しました。  
**2月 授業参観（5年生）**  
間伐について保護者へ取組を発信しました。



**2月 間伐材の活用（5年生）**  
5月に間伐した木を使ってベンチ作りをしました。

### ねらい

- ・ 阿下喜の森（人工林）の健康診断を通して、地域の森の現状を知り、地域の森に関心を持ち、森についての探究活動を行う
- ・ 間伐した木を使って、学校のみならず、地域のために物を作る
- ・ 「ふるさとの森とともに」の取組で学んだことを学習発表会で全校児童や保護者・地域へ発信する

### 取組内容

#### <5年生の取組>

5月に学校林及び私有林で森の健康診断を実施したところ、不健康な森と診断され、間伐が必要であることがわかり、間伐作業を実施しました。2月に間伐材を利用して、ベンチを作成しました。また、手入れをされた人工林（いなべ市北勢町治田寺山）を見学しました。

#### <6年生の取組>

昨年の学びを基に、「いなべ市の里山」をテーマに取り組みました。講師から学んだことを基に、いなべ市における「獣害」「災害」「絶滅危惧種」「空き家問題」について探究活動を行い、1月末の学習発表会において、その取組について全校児童、保護者、地域に発信しました。3月には、卒業記念として本校のシンボルツリーである桐を植樹しました。

#### <5～6年の取組>

岐阜県立森林文化アカデミーにおいて、森林体験活動を実施しました。森の中にあるものを利用して遊具を作成して遊んだり、木工に取り組みました。

#### <成果>

森には、様々なはたらきがあり、私たちが生きていくために必要なものであることを学びました。加えて、エネルギー源がガスや化石燃料に代わり、まきや柴が利用されなくなり里山が失われたこと、木材の利用が減ったことで、林業に係る人の減少、高齢化などの課題があることを学びました。里山や健康な森を守っていくことの難しさを知りました。さらに、これらの課題を解決しようと取組を進めている講師のお話を伺い、今の自分たちに何ができるのか、将来「ふるさとの森」を守るために何が必要か探究することができました。

内容	・ 森の健康診断 ・ 山林見学 ・ ベンチ作り
時間	<5年生> 学校林森の健康診断 8 時間 森林体験活動 6 時間 治田寺山見学 4 時間 ベンチ作り 3 時間 発表の取組 6 時間
	<6年生> 里山学習 8 時間 里山探究活動 8 時間 森林体験活動 6 時間 学習発表会の取組 10 時間 卒業記念植樹 2 時間
場所	教室、体育館 学校林及び私有林（森の健康診断） 岐阜県立森林文化アカデミー（森林体験活動） 市内人工林（手入れをされた人工林の見学）
対象	5 年生 30 人、6 年生 24 人
講師	森の健康診断出前隊 山造り研究所 鬼頭志朗氏 岐阜県立森林文化アカデミー 萩原ナバ裕准教授および指導員 いなべ自然楽校 出口省吾氏 佐藤林業 佐藤誠治氏

【先生のコメント】 今年度は、人工林だけでなく、いなべの里山についての学習も行いました。私たちの生活様式の変化により、里山が利用されなくなったこと、里山がなくなったことが獣害等の問題を引き起こしていることなど、改めて、森の大切さを学びました。



# 02

## 森林・林業の社会見学 ～亀山の森林・林業～

亀山市立亀山西小学校、亀山市立川崎小学校



森林組合職員のお話



森林・林業クイズに挑戦



四日市農林事務所職員のお話

### ねらい

- ・森林のはたらきや、木材に関する知識を学ぶ
- ・森林組合の仕事や、森に対する思いを知る

### 取組内容

亀山西小学校、川崎小学校の3年生が、社会見学のため鈴鹿森林組合を訪問し、森林のこと、林業のことを学びました。

まず、鈴鹿森林組合の職員が、亀山市の木であるスギに関することや、地域の森林・林業のこと、森を育てる作業のことについて、イラストや写真を交えたクイズ形式で説明しました。クイズの優秀者には景品が用意されていたこともあり、クイズはとても白熱し、楽しみながら学ぶことができました。

また、三重県四日市農林事務所職員から、森林のはたらきや、木材の魅力、木材を使うことの大切さについて学びました。

スギは花粉症のイメージが強いですが、花粉を出さない品種が開発されていること、スギの丸太1本の値段のことなど、児童達はメモを取りながら、真剣に聞いていました。

内容	・森林・林業のお話とクイズ ・森林のはたらき ・木材の魅力と木材利用の大切さ
時間	1 時間
場所	亀山市林業総合センター
対象	亀山西小学校 3 年生 94 人 川崎小学校 3 年生 78 人
講師	森のせんせい：鈴鹿森林組合 三重県四日市農林事務所

【先生のコメント】「亀山市の森林の面積は・・・？」など、楽しいクイズに子どもたちも、朗らかに取り組むことができました。

身近なお店や工場などの学習を通して、亀山のふるさつを見直すよい機会となりました。詳しく楽しい説明をしていただき、その後の学びにも生かすことができました。

加太に近づくにつれ、車窓から見える山並みや木々の様子に子どもたちは驚きを隠せません。センターでは、三重県や亀山市の森林の様子や現状、森林を維持管理する意義やその方法などについて、クイズ形式を交えてわかりやすく教えていただきました。子どもたちは初めて学ぶことが多く、とても熱心に学習することができました。

また、間伐材のスギで作られたお皿をお土産にいただきましたが、スギの良い香りがして、子どもたちは大喜びでした。素晴らしい学習の機会を提供していただきました。

# 03

## 木のおもちゃで遊んで、作って、学んで！（修成小学校） 木に親しみ、木を楽しもう！（南立誠小学校 北立誠小学校）

津市立修成小学校、津市立南立誠小学校、津市立北立誠小学校

### 【津市立修成小学校】



### ねらい

- ・ SNSを利用する環境が多い中、森林のはたらきを学び、遊びを通して、木の良さを体験する
- ・ 木に親しみ木の良さを感じる
- ・ 地域で森林・林業に携わる人から、地域の森林・林業や木のこと、自分たちの暮らしとの関わりを聞いて、森林・林業を身近なものとして理解を深める

### 取組内容

森のお話では、津市内林業の現状や、森林は雨水をたくわえ土砂災害を防ぎ、空気をきれいにする、木は二酸化炭素を吸収し、地球温暖化に貢献しているなど、森のはたらきについて学びました。枝葉や円盤を用いてスギとヒノキの違い、香り、葉や年輪の観察をしました。丸太切り体験では、ノコギリの使い方の説明を受け、1人ずつ丸太を切りました。子どもたちは、丸太の削りくずにふれたり、切った材の匂いを確かめたりしました。最初は慣れない道具に苦戦していた子どもも、コツをつかむとうまく道具を使って切れるようになりました。切った円盤をやすりで磨いて年輪を数えたりしました。マイ箸づくりではサンドペーパーを使って磨き、仕上げました。角を丸めたり、先をもっととがらせたり、四角のままサラサラになるまでていねいに仕上げたり、それぞれに工夫する姿がありました。ヒノキとスギの材の香り、材質の違いを比べている児童の姿がみられました。木のおもちゃ遊びでは積木をタワーにしたり、ドミノのように並べたりして遊びました。木の音や香り、肌ざわりがいいと子どもたちは直接木にふれることで木のぬくもりを感じ、物づくりの楽しさを体験しました。

内容	・ 森のお話 ・ マイ箸作り ・ 丸太切り体験
時間	1 時間 30 分
場所	修成小学校 体育館 北立誠小学校 体育館及び渡り廊下 南立誠小学校 体育館及び渡り廊下
対象	修成小学校 4 年生 53 人、保護者 南立誠小学校 3 年生 76 人、保護者 北立誠小学校 2 年生 84 人、保護者
講師	森のせんせい：中勢森林組合
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業



【津市立北立誠小学校】



【津市立南立誠小学校】



【先生のコメント】 子どもたちは、経験の少ないノコギリやサンドペーパーを使う作業に楽しく取り組んでいました。木の香りを嗅ぎ、木にふれて、肌ざわりを感じることができました。

また、自然を大切にしようという思いを持つことができました。

保護者にとっても、家庭や教室では見られない姿を見ることができました。

丸太切りなど普段体験できないことを体験させていただき、子どもたちは大興奮でした。また、新たなことにチャレンジでき、充実した子どもたちの様子がみられました。箸やコースターを大切に持ち帰り、お家でも大切に使っていることを聞きました。

木を切ったり、磨いたり普段体験できない作業に楽しく取り組むことができました。実際に木の香りにつつまれながら、手でふれることで森林をより身近に感じることができました。



# 04

## 森のはたらきについて学ぼう！

津市立高茶屋小学校



学校内の林間でスギ、ヒノキ、エノキなどの樹木にふれたりして五感で森を感じる



アカマツの樹皮の観察



本日の五感で森を観察、気づいたことを話し合い、森のはたらきや林業を知る



ヒノキ材の木目や節の観察、枝打ちを知る

### ねらい

- ・ 森のはたらきを学び、森のことを知る
- ・ 自分たちの生活と木がどのように関わっているかを知る

### 取組内容

まず、児童15～16人の6班になり、各班に森のせんせいが1人ずつ付き、運動場と学校の林間との往来により、その違いを考え、「森」を五感で感じました。「林間のほうが風がない」「地面がやわらかい」「鳥の音が聞こえる」など各班でいろんな発見や発言がありました。

次に、樹木、木材の観察をしました。森にはいろんな種類の木があることや葉の形や匂いも違うこと、木からキノコが生えていたり、虫が隠れていたりするのを発見した班もありました。森のせんせいからもお話を聞いてさらに学校の林間について興味を持ち、好きになったようでした。

観察後、森のせんせいから森林の公益的機能、林業の必要性、林業の楽しさなど森林や林業、木についてのお話を聞きました。その後、室内で学習したことを話し合い、班別に分りかえりをしました。

身近な林間を通して樹木について観察したり、話を聞くことで、あらためて、木のよさにふれ親しみを感じることができました。

林間が自分たちの生活とも身近に結びついていることに驚き、森のはたらきや木の特徴を知ったことで、森や木を大事に思う心やもっと知りたいという心が芽生えていました。

内容	・ 森のお話 ・ 樹木観察
時間	1 時間 45 分
場所	運動場、林間、2Fホール、図書館
対象	5 年生 95 人
講師	森のせんせい：三重森林インストラクター会
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 児童たちは森のせんせい方の話に引きこまれ楽しく興味深く聞いたり、自分たちの考えを発表していました。

また、ふりかえりもしっかり書くことができました。



# 05

## 三重の森林と私たちの暮らし

津市立誠之小学校



### ねらい

- ・ 環境問題の現状を知り、一人一人が身近なものから少しでもエコ活動に取り組めるよう努力する
- ・ 木とふれあい、親子で協力して作成することで、親しむ機会にする
- ・ 間伐材や地域の木を使うことに対する正しい理解を促す

### 取組内容

#### 【森のお話】

樹木の円盤や森林のパネルを提示しながら、尾鷲のヒノキ林の様子、針葉樹・広葉樹などいろいろな森林があることや森林のはたらきの話を聞きました。また、手入れをしないと災害が起こることや森林を元気にするために間伐する必要がある、その際得られたヒノキ材が箸の材料になることや、木の香りやぬくもりについてもお話していただきました。

#### 【マイ箸づくりの体験】

まず、最初に粗いサンドペーパーで箸の形を整え、角を丸くしながら、表面を磨き、細かい方のサンドペーパーで仕上げました。

次に、鉛筆で下絵を描き、マジックペンやバーニングペンで絵付けをしました。バーニングペンは先が熱くなるので火傷に注意することやカバーの上にセットして机を傷付けないことなどの注意がありました。

下書きの跡を消しゴムで消して、着色します。柿渋で着色する人は、箸先と色を付けないところをマスキングテープで作りました。

柿渋を筆で塗ってドライヤーで乾燥させ、仕上げを今回は蜜蝋でコーティングしました。

#### 【箸のお話】

まとめのお話として、箸の手入れのしかたや、自然の恵みの話をしていただき、自然の恵みに感謝して長く大切に箸を使ってくださいと話されました。

【先生のコメント】 間伐など森林を手入れすることで、森林環境を良好にし、災害防止にも役立つことを改めて確認することができました。また、親子でヒノキの間伐材を磨き、絵付けすることで香りやぬくもりに気づき、心温まる時間を過ごせました。作った箸を使うごとに、当日の話や木のぬくもりを感じてくれるのではないかと思います。

内 容	・ 森のお話 ・ マイ箸作り
時 間	1 時間 45 分
場 所	なかよしホール
対 象	6 年生 65 人、保護者 65 人
講 師	森のせんせい：NPO法人 海虹路
備 考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

# 06

## マイトラリーを作ろう ～マイスプーンを作ろう～

大台町立三瀬谷小学校



### ねらい

・保護者と共に、木工体験を通じて、森林環境に興味をもつ

### 取組内容

総合的な学習の時間に「未来の森」という森林学習に取り組んでいる4年生19人が、その活動の一環として、森のせんせい方を招き、大台町産の木材を使った「マイスプーン作り」に挑戦しました。

現在では、森林の中にある大台町に住んでいても、その恩恵を感じる機会が少なくなってきています。自分たちが入学時にももらった木製の机といすが大台町産の木材で作られること、木を利用することで森が元気になること、山を手入れしていくことが大切であることやその土地の木を使う意義などを聞く時間もいただきました。それから、大台町産の木（ホノキ）やエゴマ油を使い、大台町内の製材所で加工してもらった材料で、親子で1つのものを作り上げました。

初めて使う小刀の使い方を、自分の鉛筆を小刀で削ることで練習しました。いつもは鉛筆削り機を使っているので、「難しい～」と弱音を吐きながらも、おうちの方のサポートを得ながら削っていました。それから小刀を使い、スプーンの形を整え、サンドペーパーで表面を滑らかにしていきました。根気の必要な作業に、親子で協力して自分だけのお気に入りスプーンに仕上げました。最後に大台町で栽培しているエゴマからしぼった油を塗って仕上げ、大切な自分だけのスプーンを完成させました。

内容	・森と木のお話 ・マイスプーン作り
時間	1 時間 30 分
場所	図工室
対象	4 年生 19 人、保護者 19 人
講師	森のせんせい：森の研究所 みえ森づくりサポートセンター
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 初めは慣れない小刀を使うことに苦戦していましたが、手ほどきを受けてだんだんと木を削れるようになっていきました。大台町産の木材や油、町内の工場での加工などこだわっていただいたこと、自分だけのスプーンというところに魅力や価値を感じる活動になりました。



# 07

## 木と仲よくなろう！

玉城町立田丸小学校



### ねらい

- ・木を使ったコースター等の作品を作ることにより、木や森についての関心を高める

### 取組内容

森のせんせいから、森林や木についてのお話を聞きました。  
 森林は動物などの住みかとなり、二酸化炭素を吸収して、空気をきれいにしていることや、森のはたらきの光合成で木は吸収した炭素で大きくなり、春夏と秋冬の成長の違いで年輪ができ、年輪を数えると年齢がわかること、土砂災害を防止するはたらきをしていることなどを学びました。  
 実習1の「木の特徴を知る」では、机ごとに用意された樹木の円盤や枝葉を利用して観察したり、香りをかいだり、見本の円盤の葉っぱはどれかなどクイズをしました。  
 また、木によって材の色が違うことや、木は乾燥すると収縮するので板は反り返り、円盤は割れることなどを学びました。  
 実習2の「コースター作り」では、ノコギリで丸太を切って、サンドペーパーで磨きました。スギとヒノキの丸太が用意されたが児童に人気なのはヒノキでした。太い丸太をみんな一生懸命に切っていました。少し細い丸太もありましたが、太い丸太が切りたいと望む子もいて、丸太切りは盛り上がりました。  
 絵付けとコーティングの仕上げは、後日の授業ですることとなり、サンドペーパーで磨き上げるところまで行い、片付けをして出前授業を終了しました。

内 容	・森のお話 ・木のコースター作り
時 間	1 時間 40 分
場 所	図工室
対 象	5 年生 49 人
講 師	森のせんせい：いせしま森林組合
備 考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した町事業「森林環境教育支援業務」

【先生のコメント】 森のおはなしを聞き、子どもたちは、森林が自分たちの命を守ってくれていることに気づくことができました。コースター作りでは、ノコギリで丸太を切るのに苦労している子もいましたが、最後までがんばって切っていました。

# 08

## 木の流れを追って

うだ  
玉城町立有田小学校



### ねらい

- ・ 森林から産出される木材が身近な製品になるまでの流れを知る
- ・ 木材を長く使うことで、二酸化炭素CO<sub>2</sub>を固定しているはたらきを知る
- ・ 木にふれて、加工の容易さを知る

### 取組内容

玉城町立有田小学校の5年生児童は、ウッドピア松阪を訪れ、私たちが使っている木材になるまでの木の流れを学びました。

初めに講師から、先進的な木材総合流通加工基地を目指して松阪木材コンビナート「ウッドピア松阪」が2001年から順次稼働したことや、ウッドピア松阪の面積は41haで、東京ドーム9個分ぐらいの広さがあることなどのお話を聞きました。

原木市場では、スギやヒノキの原木が並べられており、スギの大きな丸太の年輪を数えて、木の年齢を調べました。また、スギとヒノキの原木を見比べて、樹皮や材の色の違いを確認しました。

製品市場では、柱や梁、垂木、板などの製品を見て、使われ方や無節材の価値が高いとのお話を聞きました。

製材工場では、樹皮の剥かれた丸太が自動で送り込まれ、帯鋸でひかれた材が出てくる様子を見ました。危険なので、入り口からの見学でしたが、ほとんど人がいなくて機械だけが動いているように感じました。

内装材工場では、フローリングや壁板を仕上げていました。

表面をきれいにカンナ掛けする機械のところでは、カンナくずがカツオ節を削ったような木の薄い膜も見つけられました。

表面を圧縮する圧密加工された床板では、年輪が浮き出ている模様を手でさわって感触を楽しみました。

最後に木の切れ端が集められているコンテナのところでは、お土産に持って行っていいよとアナウンスされると、みんな競ってきれいな木片をたくさん集め、嬉しそうに持ち帰りました。

時間的制約ですべての施設は見られませんが、児童はしっかり学んでいました。

内 容	木材コンビナート「ウッドピア松阪」の見学
時 間	2 時間
場 所	木材コンビナート「ウッドピア松阪」の各施設
対 象	5 年生 32 人
講 師	ウッドピア松阪協同組合 工藤剛 氏
備 考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した町事業「森林環境教育支援業務」

【先生のコメント】 太くて長い丸太がたくさん積み上げられている様子や、板、柱が並んでいるところを見せてもらい、木材が自分たちの生活にとって身近で大事なものだと感じられる見学になりました。



# 09

## 木にさわってゲームを楽しもう！

と き だ  
玉城町立外城田小学校



### ねらい

- ・ 薪を使った遊びから始まったクップを知る
- ・ 森林から産出された木が加工され、身近なものに使われていることを知る
- ・ 木を使ったゲームで楽しく運動をする

### 取組内容

はじめにクップの生立ちと2021年に三重県で開催の「とわか国体」でデモンストレーション競技として採用されていること、クップのルール説明を聞きました。児童は8チームに分かれ、コート4面に分かれクップ競技を行いました。競技中はみんな一生懸命で、どこをねらうか、相手コートの中へ投げ入れるクップの位置などの作戦を練ったり、投げる順番を工夫したりしていました。相手のクップを倒すとハイタッチをして喜び、チームワークを盛り上げて競技を楽しみました。カスタピナがクップを倒すときのカーンといった木の音が爽快で気持ちいいという感想がありました。クップ競技体験の後、児童は多目的ホールにて森と木のお話を聞き、クイズ形式で森林の多い国や県の状況やクップのカスタピナを木に見立てての間伐についての説明や、持続可能な森林経営から産出されるFSC認証材で、クップ競技体験で使用したクップが作られていることなどをみんなで学びました。

内 容	・ 森のお話 ・ クップ体験
時 間	1 時間 40 分
場 所	運動場、多目的室
対 象	5 年生 41 人
講 師	森のせんせい：向田恵子氏 森のせんせい：久保田勝典氏 みえ森づくりサポートセンター
備 考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した町事業「森林環境教育支援業務」

【先生のコメント】 クップの体験で尾鷲ヒノキにふれ、ヒノキの木の感触や重さ、木と木がぶつかる音などを楽しみながら活動していました。

森林のお話は、社会科の国土や産業の学習への関心を高めるきっかけとなりました。

# 10

## 木の枝でつくってみよう！

しもと きだ  
玉城町立下外城田小学校



### ねらい

- ・ 森林のはたらきや木の成長する仕組みを知る
- ・ 木にふれて、加工の容易さを知る
- ・ 自分で作る達成感を感じる

### 取組内容

最初に森のせんせいから、森林や木についてのお話を聞きました。森林は二酸化炭素を吸収して、空気をきれいにしていることや、木は吸収した炭素で大きくなり、春夏と秋冬の成長の違いで年輪ができ、年輪を数えると年齢が解ることを学びました。児童から「木を切るときに工夫していることはありますか。」など、たくさんの質問が出て、森のせんせいも一生懸命答えてくれました。

次に、図工室に移り、机ごとに用意された樹木の円盤や枝葉を利用して観察したり、香りをかいだり、見本の円盤の葉っぱはどれかなどの課題に積極的に取り組みました。また、木によって（材の）色が違うことや、木は乾燥すると収縮するので板は反り返り、円盤は割れることなどを学びました。

キーホルダーづくりでは、ノコギリで枝を切り、サンドペーパーで磨きました。スギとヒノキの枝が用意されましたが児童に人気なのは、スギの枝でした。絵をかくことや、仕上げは自分たちでもできるので、しっかりと磨き上げ、キーホルダー部材を付けるところまでの作業にじっくりと取り組みました。

【先生のコメント】 二分の一成人式のとき、おうちの方へプレゼントするキーホルダーを作りました。児童は年輪をみて10歳に近いかどうか調べていました。

児童は、キーホルダー作りをととても楽しんでいました。でき上がる前からいつ持って帰るのかと完成を楽しみにしていました。

内 容	・ 森のお話 ・ キーホルダー作り
時 間	1 時間 40 分
場 所	教室及び図工室
対 象	4 年生 26 人 3 年生 27 人
講 師	森のせんせい：いせしま森林組合
備 考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した町事業「森林環境教育支援業務」



# もりのはたらきを知り、木で作ってみよう！

南伊勢町立南島東小学校、南伊勢町立南島西小学校



## ねらい

- ・森林のはたらきや木の生長する仕組みを知る
- ・木に触れて、加工の容易さを知る
- ・自分で作る達成感を感じる

## 取組内容

### 「森のお話」

森のせんせいから、森林や木についてのお話を聞きました。森林は動物などの住みかとなり、二酸化炭素を吸収して、空気をきれいにしていることや、木は吸収した炭素で大きくなり、春夏と秋冬の生長の違いで年輪ができ、年輪を数えると年齢がわかるということを知りました。また、森林があることで雨が地中に浸透し土砂災害を防止するはたらきや湧き水となって徐々に川に流れる緑のダムのはたらきがあることも学びました。

次に、机ごとに用意された樹木の円盤や枝葉を利用して観察しました。

円盤の年輪を数えて樹齢を当てたり、香りをかいで見本の円盤の葉っぱはどれかなどクイズをしました。

### 「木のマグネット作り」

各自が木の枝を輪切りにした円盤（直径4～5cm）をスギ、ヒノキ、サクラ、ヒメシャラの4種類から選びました。円盤にサンドペーパーをかけて、表面をきれいに仕上げましたが、ヒメシャラを選んだ子は、材が堅いので苦労していたみたいです。

そのあと表面に自由に絵や文字を描いて、自分だけのデザインができました。裏面にマグネットの部材をボンドで取り付けて完成しました。

内容	・森のお話 ・木のマグネット作り
時間	1 時間 40 分
場所	南島東小学校 教室 南島西小学校 図工室
対象	南島東小学校 1 年生 10 人 南島西小学校 1 年生 10 人 2 年生 7 人
講師	森のせんせい：いせしま森林組合
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した町事業「森林環境教育事業」

【先生のコメント】 森林に目を向け、海の環境とその大切さを知るよい機会となりました。興味津々でいろいろな木々に触れ、年輪も一生懸命数えました。自分で選んだ木で作ったマグネットを大事に持ち帰り、大喜びでした。

森林について絵図を使って説明していただいたので、低学年の子どもも集中して話が聞け、理解することができました。世界にひとつのマイマグネットができ、子どもたちは大喜びでした。

# 12

## 木のあたたかみを感じよう ～カホン作り～

志摩市立東海小学校



### ねらい

- ・木の特性を知り、親しみ、木のよさを感じる
- ・カホン制作を通して、木のあたたかさやよさを感じる

### 取組内容

本校は昨年4月に近隣5校が統合し、新たな敷地に新たな校舎を建築して誕生しました。建築材として、校舎内には木がふんだんに使われています。しかし、開校から1年あまり経ちますが、子どもたちはその木のよさやあたたかみにあまり気がついていない様子であることを残念に思っていました。そんなとき、この出前授業と出会いました。

迎えた当日。森のせんせいのやさしく、ユーモアある語り口に、子どもたちはすぐひきこまれていきました。制作では、スギ材をはりあわせて工程をすすめる中で、道具の正しい使いかた、また、「こば・こぐち」「木表・木裏」「すえ・もと」といった木材を見るときの基本知識についても、子どもたちは森のせんせいから学びました。完成後、カホンで数種の音が出せることを学んだ子どもたちは、さっそく森のせんせいのリズムカルな演奏にならって、カホンの奏でるリズムを楽しみました。

9月初めの体育館は、まだまだ残暑厳しい、必ずしも好環境とはいえない設定日ではありました。しかし、県産材であるスギの豊かな香りに包まれて、子どもたちはこの日、とても心豊かな時間を過ごすことができました。

【先生のコメント】 座学ではけっして得られない学びが、出前授業にはありました。私たちの校区には、真珠を育む豊かな海がひろがります。その豊かな海を育み、支えるのは森とみどりにほかならないことを、あらためて子どもたちとたしかめあうすばらしい機会となりました。

内 容	・木のお話 ・カホン作り
時 間	3 時間 45 分
場 所	体育館
対 象	4 年生 52 人、保護者
講 師	森のせんせい：高橋一浩氏
備 考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業



伊賀市立成和西小学校



森のせんせいにお越しいただき、森林の役目と大切さについて、お話を伺いました。

### ねらい

- ・ 実際にお話を聞いたり、映像で見たりすることにより、森の良さや役割を知る
- ・ 椎茸の菌打ち体験を通して、椎茸栽培の方法について学ぶ
- ・ 椎茸の世話を通して、椎茸の生長を楽しみ、収穫を待つ喜びを味わう

### 取組内容

本校には、学校林があります。日頃は、この学校林を活用して、四季の違いを見つけたり、花や葉のしくみを観察したりして、生活科や理科の学習を行っています。

昨年度に続き森のせんせいに来ていただき、森の役割や森の大切さについてお話を伺う学習を全校で実施し、その後、椎茸の菌打ち体験を行いました。

現在、高学年が中心となって、学校林で椎茸のシートの中を検温したり、水をかけたり、シートを外したりして世話をしています。

今年入学した1年生も、今回、同じように体験をさせていただいたことで、学校林の良さや椎茸の栽培の楽しさを味わっています。



森のせんせいから、椎茸の原木の種類や菌の打ち方、今後の世話の仕方についてお話を伺いました。



菌を打った後、学習林に原木を運び、井桁に組んで、ビニールシートをかけました。

内容	・ 森のお話 ・ シイタケのお話 ・ シイタケの菌打ち体験
時間	3 時間（「せいかつ」の時間）
場所	教室・運動場・学校林
対象	1 年生 13 人
講師	森のせんせい：青木茂氏 森のせんせい：伊賀森林組合
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した市事業「伊賀の森っこ育成推進事業」

【先生のコメント】 1年生の児童は、椎茸の菌種を大切に扱い、一つ一つ原木に打っていきました。打ち終わった後は、原木を嬉しそうに学校林まで運んでいました。2年後の収穫を楽しみにしています。



# 14

## 木のペンダント作りと森のゆうえんち

伊賀市立<sup>みわ</sup>三訪小学校



### ねらい

- ・ 森の遊びや創作活動などいろんな視点から自然を体験することを通して、自然の中で遊ぶ楽しさを感じる
- ・ 木の手触りや木目の違いなどを楽しむ

### 取組内容

上野森林公園では、伊賀市立三訪小学校の1、2年生が、室内活動「木のペンダント作り」、屋外活動「森のゆうえんち」を行いました。

まず、木のペンダント作りでは、使用する木材「ネジキ」の名前の由来等のお話の後、紙やすりで木をツルツルになるまで磨きました。子どもたちは、途中に何度も見本のペンダントと自分のペンダントの手触りを比べながら、「まだ磨き足りない」と力を込めて磨いていました。

最後に、布でこすってピカピカに仕上げました。完成すると、周りの友だちとお互いの完成作品を触り合い、木のなめらかな手触りを楽しんでいました。

「森のゆうえんち」では、公園のフィールドに木のブランコやハンモックなどを特別に設置し、子どもたちが気軽に遊べる場所を開放しました。子どもたちは、フィールド内の遊具で遊んで活発に過ごしたり、ハンモックに揺られながら、木々の木もれ日を見て気持ちよさそうに過ごしたりしていました。約1時間思い思いに遊び、森の中で過ごす時間を満喫している様子でした。

内 容	・ 木のお話 ・ 木のペンダント作り ・ 森のゆうえんち
時 間	2 時間 木のペンダント 60 分 森のゆうえんち 60 分
場 所	三重県上野森林公園 ビジターコテージ周辺
対 象	1～2 年生 29 人
講 師	森のせんせい：三重県上野森林公園
備 考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した市事業 「伊賀の森っこ育成推進事業」

【先生のコメント】 ネジキのペンダント作りでは、どの子どもとっても張り切っている様子でした。1時間ほど磨き続け、見た目も手触りも最初とは大違い！子どもたちは「すごい！」「全然違う！」と努力の成果を実感することができました。出来上がった作品を家に持ち帰り、おうちの人も「とてもいい作品ができたね！」と、子どもたちの頑張りを褒めていただきました。  
森のゆうえんちでは、ハンモックや木のブランコ、松ぼっくり釣りなど普段はなかなか遊ぶことができない遊びに子どもたちはビックリ！「もっと遊びたい～！」という声が飛び交っていました。



## 学校林わくわくプロジェクト ～学校林を探険しよう～

こもはら  
名張市立薦原小学校

### 森のせんせいのお話



森のせんせいに、学校林の健康状態や森で生きている生きものについての話を聞きました。



間伐した材木の断面を観察して、年輪や色の違いから、スギやヒノキの特徴をつかみました。

### 間伐の見学、新設された遊具等の体験



地域の方々による間伐の見学で、木が倒れる迫りに圧倒されました。途中で枝に引っかかった木を倒しました。



今年新たに設置された舞台上がって森の観察をし、タイヤ橋でバランスをとって渡りました。

### ねらい

- ・学校林での体験的な活動により、森林に対する理解を深める
- ・森林の良さを体感するとともに、間伐材を使った木工作業を通して木材を活かす生活について考える

### 取組内容

5年生の社会科の産業学習で林業を学習しています。この学習では、実際に学校林に入り、体験的な学習によって森林の役割や良さに気付き、林業体験をすることによって森林についての理解を深めていきました。

学校林だけの活動だけに限らず、3学期の図工の時間には間伐材を使った木工体験（コースター作り）を行い、木材を利用した生活についても自分の考えを出し合いました。

12月の学校林での活動は、森のせんせいから学校林の健康状態や森林の役割、森林で生活する生きもののお話、そして人の手によって行う間伐の大切さ等を教えていただきました。その後、地域の方々（薦原市民センター）の間伐を見学し、切り倒された丸太の断面の観察をしました。

この活動により子どもたちは、次の学習成果が得られたと思われます。

- ・学校林での体験活動や見学を通して、日本の林業についての理解を深め、木材を活かす生活について考え合うことができました。
- ・子どもたちは初めて入る学校林に興味を持ち、協力しながら意欲的に学習に取り組んでいました。また、森林の環境を体感すると共に、木材の利用についても考えながら学習を進めることができました。

内容	・森のお話 ・間伐見学
時間	2 時間（総合的な学習の時間及び社会科）
場所	学校林
対象	5 年生 21 人（保護者 5 人）
講師	みえ森づくりサポートセンター
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した市の学校林整備事業

【先生のコメント】 学校林が整備されて 4年目になり、展望台や古タイヤを使った遊具も設置されて、学校林を使った森林環境学習の場が年々整備・充実されてきています。昨年度は、1月実施で広葉樹は全部葉を落としていましたので、今年度は山を染める広葉樹と常緑の針葉樹の対比ができる頃ということで、12月中旬の実施でした。当日は天候にも恵まれ、整備されてきた学校林で、五感を働かせて楽しく学ぶ体験ができたと思われます。

保護者の方も参加され、学校林での学習活動の見学だけでなく、いっしょに活動に参加していただきました。

# 森林のはたらきを知ろう・県産材を使おう ～マイ箸作り体験～

# 16

津市立南が丘中学校



## ねらい

- ・ 県内の森林や林業の現状や森林のはたらき、大切さを知る
- ・ 県産材を使ってマイ箸づくりを行い、木の良さを感じ、木に親しむ
- ・ 県産材を使った木製品の設計、製作の意義を理解する

## 取組内容

中勢森林組合の方から森林の有する地球温暖化防止や土砂崩壊防止など公益的機能についてのお話を聞き、林業についての紹介や特に人工林については間伐の必要性と使うことが森を元気にすることを学びました。

スギの間伐材を利用した角材を小刀で削りだし、箸づくりを行いました。

県産材のスギの間伐材（15×210×1200mm）の一枚板から小さい子どもが使うミニ机をプロシューマー（生産者と消費者の両方）の視点で設計し、製作しました。のこ引きの作業には南が丘地域の方々々に技術的なサポートをしていただきました。

これらを通して生産者としての社会的責任（CSR）や製作材料に地元の木材を利用することが地域活性化や森林の再生につながることを理解しました。

内容	・ 森林・林業のお話 ・ マイ箸作り
時間	3 時間 50 分（1 クラスあたり 50 分 ×4 クラスで実施）
場所	木工室
対象	1 年生 128 人
講師	森のせんせい：中勢森林組合 南が丘学校支援委員会
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 初めて小刀を扱う生徒が多かったのですが、小刀の扱い方を丁寧に教わり、皆真剣に取り組んでいました。

ノコギリびきもサポートしていただき本当に助かりました。



# 中学生職場体験学習 わくわくワーク

松阪市立中部中学校



作業と注意事項の説明



生徒自ら考えて選木しました。



伐倒後、年輪の数を教わる生徒



シイタケ原木の組み作業の様子

## ねらい

- ・主体的に地域で活動することを通して働くことの意義を学び、感性や創造性を高め、将来の自分の生き方を見つける
- ・地域の人と中学生が交流することにより相互理解する
- ・教職員が地域の人とともに交流することにより、地域との結びつきを強める
- ・学校-家庭-事業所-地域社会-関係機関等が連携し、生徒の自主的な活動を支援する

## 取組内容

松阪市教育委員会では、市内の全中学校で毎年「中学生職場体験学習わくわくワーク」を実施しています。そのうちの林業に関しては、松阪林業研究会で例年数名の生徒の受け入れを行っています。今年は、林業体験の希望者3年生14名を受け入れることになりました。

松阪林業研究会は、旧松阪市の自伐林家が中心となり昭和53年ごろに20数名の会員で発足し、これまで育林技術の向上や林業経営の改善に向けて会員がお互いに研鑽を積んできました。

当研究会の活動として、松阪市立中部中学校の職場体験の受け入れや松阪市立大河内小学校の学校林での林業体験を約10年以上継続して実施しています。

今回の体験学習は6月4日～6日の3日間で行われ、松阪林業研究会のメンバーが講師となって選木・間伐・皮むき・しいたけ原木の集積作業などの様々な体験を行いました。

参加した生徒たちからは、「木の倒れるときの音、迫力がすごかった。」「皮はぎ体験が楽しかった。」などの感想があり、貴重な体験となったようです。

内容	林業体験
時間	3日間
場所	松阪市阪内町地内の私有林
対象	3年生 14人
講師	松阪林業研究会
備考	中学生職場体験学習 わくわくワーク

【先生のコメント】 子どもたちが、普段の学校生活では、見ることのない光景に対して目を輝かせていたことが印象的でした。各体験に取り組む姿は真剣そのもので、汗をぬぐいながら活動する様子がとてもよかったですと感じました。

林業研究会の皆様には、1つ1つ丁寧にご指導いただきました。生徒からは、「初日にできなかったことが、最終日にできるようになって嬉しかった。」と報告を受けました。働く大人の姿を目の当たりにすることで、自らの進路について考える良い機会になったと思います。貴重な体験をさせていただきました。



## 専門高校における林業体験

### ①VRによる林業体験 ②高性能林業機械操作体験

三重県立久居農林高等学校環境保全コース



①-1 チェーンソーのVR体験



①-2 ハーベスタのシミュレーター体験



②-1 チェーンソーによる伐倒



②-2 グラップルクレーンの操作

#### ねらい

- ・ 林業の現場を体験し、林業に関する知識や技術・技能を深める
- ・ 林業の実際を体験し、仕事としての林業への理解を深め、将来の進路選択に生かす

#### 取組内容

久居農林高校環境保全コースは、森林や環境について学ぶ専門高校です。今年度実施した林業体験について紹介します。

- ① 1年生を対象としたVRによる林業体験では、VRゴーグルを着用し、仮想空間上で伐倒を体験しました。様々な状況が体験でき、特に事故を再現した場面では、体をのけぞらせ、大きな声を上げる生徒もいました。ハーベスタのシミュレーターでは、モニターを見ながらレバーを操作し、伐倒・造材の疑似体験をしました。
- ② 2年生を対象とした高性能林業機械操作体験では、1日目にチェーンソーによる伐倒を行いました。これまでに手挽きノコギリでの間伐の経験はありましたが、チェーンソーを使った伐倒は初めてでした。中勢森林組合の方々のご指導の下、安全に配慮しながら慎重にチェーンソーを使い、無事に作業を終えました。2日目は、フォワーダやグラップルクレーンなどの高性能林業機械の操作を体験しました。グラップルクレーンでは材の積み上げ操作を体験しました。

内容	林業体験
時間	①4時間 ②12時間
場所	①久居農林高校 ②津市美里水源の森、白山町
対象	①1年生 30人 ②2年生 28人
講師	①株式会社森林環境リライズ 日立建機日本株式会社 森のせんせい：中勢森林組合 ②森のせんせい：中勢森林組合

【先生のコメント】 この体験を通して生徒たちは林業について理解を深めることができました。プロの方々の親切丁寧な指導により生徒たちの林業に対する興味や関心が高まりました。



# 「林産物利用」での取り組み2019

～大台町の林産物利用について～

# 19

三重県立昴学園高等学校



## ねらい

- ・大台町で生産、製材された材料を使用し、地場産業の大切さを知り、地域の活性化を促進する
- ・木材の個性を活かして適切な目的に使用することができる

## 取組内容

昴学園高校の位置する多気郡大台町は面積の9割以上が森林であり、自然豊かな地域です。本校では昨年度から「林産物利用」という科目を取り入れ森林資源の循環利用と林業について学習し、木材の性質や加工・利用について学んでいます。

本校では、昨年から木工作家の方を講師とし、木材加工の楽しさとプロの技を見せていただくとともに、加工に必要な道具の説明や手順、仕上げ方などを丁寧に説明していただき、11月14日にはスツール（イス）製作を行いました。製作した日には講師所

有の作業所で作業を行い、専門道具を用いて木材加工について順に生徒1人ずつに、材の削り方や釘を使用しない接着の方法等、親切にわかりやすくご指導いただきました。今回の木材加工実習は大台町の木材を有効利用すること、地場産業を知るといふことの意味を理解できた貴重な経験になりました。

内容	・林業と木のお話 ・スツール作り
時間	3 時間
場所	講師作業場、実習教室
対象	環境技術系列 3 年次生 16 人
講師	吉川和人氏

【先生のコメント】 生徒たちは、木材の削り方について一定の削りやすい方向を確かめるとともに材質について堅い材や柔らかい材を適材適所、使い分けをする必要性があることを理解し、体験できた時間となりました。



### ねらい .....

- ・ 県内の森林・林業の現状やはたらき、大切さを知る
- ・ 見学や聞き取り調査、体験を通して、「木のよさ」を実感する

### 取組内容 .....

森のせんせいに案内していただき、施業した森林を見学しました。森のせんせいからは「人工林と天然林とのちがい」や「林業の仕事」について話をいただきました。また、「ここからは自分たちで考えてみてね。」などの声かけもしていただいたので、見学後には子どもたちと森林・林業のことについて考えることができ、今後の学習につながる疑問が多く出ました。

学習を進めるうちに、『木のよさ』とは具体的にどのようなことなのだろう。」という疑問が出ました。今までの体験や生活経験から「木のよさ」を「いいにおいがする」や「加工するとつるつるする」などの言葉は出ていましたが、もっと詳しく知りたいと関心が高まったため、大工の森のせんせいに話をいただきました。県産材にこだわって仕事をしている森のせんせいから「木のよさ」についての話を聞き、さらに、最後にはカンナがけ体験をさせてもらったことで、「木のよさ」についての理解を深めることができました。

学習のまとめとして、もう一度、森のせんせいに森林・林業の話をいただきました。前回の見学では、作業をしているところを見ることができなかったのですが、今回は作業をしているところの動画も見せていただき、より確かな理解につなげることができました。また、最後には「国産の木材を使って、元気な森を取り戻そう」というメッセージを伝えていただき、県内の森林・林業の実態から「どうしたらよいか」と自分の生活と重ねて考えることができました。

内 容	・ 林業のお話 ・ 林業見学
時 間	4 時間（社会科での学習活動）
場 所	津市芸濃町雲林院の森林教室
対 象	5 年生 32 人
講 師	森のせんせい：中勢森林組合 森のせんせい：高橋一浩氏

【先生のコメント】 これらの取組を通して「木のよさ」を実感することができました。五感を通して学びながら、日本の林業の現状や課題について「木のよさ」を視点として理解を深めることができました。



# 21

## 旧宮川村から地域を考える

学校法人三重中学校・三重高等学校



武田製材にて、いろいろな種類の木の話をお聞きました。



細澁さんの解説、以前高いところまで苗木を背負って植えに行ったお話です。



森選組のご指導のもと薪割体験



森の健康診断を実施しました。

### ねらい

森林で有名であり、地域で頑張っている松阪近郊の大台町旧宮川村について、いろいろな人と関わりながら、自ら学ぶ

### 取組内容

高校1年生の秋の遠足の滞在地を大台町旧宮川村地区とし、10月30日(水)当日に以下の3つのコースで研修を行いました。

「教育と自然(1号車)」大杉谷自然学校(災害時のご飯の炊き方)→みやがわ森選組(薪づくり)→宮川森林組合(旧宮川村の取組)→絵本作家浦中氏(幼児教育)、みえ森づくりサポートセンター職員(木育)

「産業と地域医療(2号車)」ふるさと案内人筒井氏(地元での取組)→武田製材(いろいろな樹種)→大台町宮川歯科診療所(地域での医療)→報徳診療所(地域での医療)→みやがわ森選組(薪づくり)→宮川森林組合(旧宮川村の取組)

「森林と自然環境(3号車)」みやがわ森選組(薪づくり)→宮川森林組合(旧宮川村の取組)→林業家細澁芳弘氏・森の健康診断出前隊(森林の水源涵養機能・森の健康診断)

その中で、受動的に見学や体験をするのではなく、事前に教育や木育・地域医療・林業についての質問を考えておき、疑問について対話することで地域について深い理解ができるようにしました。

成果として、県の環境学習情報センター等主催の冬のエコフェアにてESD賞受賞。「みえ子ども森の学びサミット」にて発表。

内容	・森林・林業のお話と見学 ・森の健康診断 ・製材工場見学
時間	20 時間(総合的な学習の時間等)
場所	旧宮川村、教室
対象	高校 1 年生(六年制 4 年) 127 人
講師	森のせんせい：みやがわ森選組 森のせんせい：宮川森林組合 森のせんせい：大杉谷自然学校 大台町役場 森の健康診断出前隊 報徳診療所松島康氏 細澁芳弘氏 筒井敏氏 辻泰明氏 武田誠氏 浦中こういち氏 みえ森づくりサポートセンター

【先生のコメント】 地域を大切に考えている、想いを持った方々に出会い、地域に関して真っ向から考える機会となりました。

## 22

## 鳥羽市「木育教室」

鳥羽市立かがみうら保育所 鳥羽市立相差保育所



## ねらい

- ・「森と海のおはなし」では、森や木に興味をもつ、鳥羽市の豊かな海を作るため、森を元気にすると海も元気になることを知る
- ・木の遊具や木のおもちゃとふれて、木の良さやぬくもりを体験してもらう
- ・県産材の間伐材で作品を作り、道具の使い方や物づくりの楽しさを学ぶ

## 取組内容

はじめに絵本の読み聞かせにより、木は季節ごとにいろいろと変化する様子を学びました。その後、人が木を利用しなくなり、さらに森のお世話をしなくなったことで、木がどんどん大きくなり窮屈な思いをしていることや、元気をなくしていることを学びました。また、森と海はつながっていて、森がつくり出す水や栄養分は鳥羽の豊かな海を支えるのに大切なことを学びました。そして、鳥羽市の豊かな海を守っていくには、森のお手入れ、木を使うことで森を元気にすることが大切だということを学びました。木育ひろばでは木の遊具やおもちゃで遊び、木のぬくもりやかおりを五感を使い、遊びを通して体験しました。

山林資源の活用では、ノコギリの使い方などを教わり、保育所の裏山で七夕の竹を自分で切るミッションに挑戦し、子どもたち自身の手で切った竹を使って七夕飾りをつくりました。

相差保育所では丸太切りに挑戦し、切った材を使ってボードコール作りに取り組み、色とりどりの可愛い作品に仕上がりました。

内容	・森と海のお話 ・丸太切り体験
時間	かがみうら保育所：木育教室 2 時間 野外活動 2 時間 30 分 相差保育所：木育教室 2 時間 木工体験 2 時間
場所	かがみうら保育所：保育室、遊戯室、 保育所の裏山 相差保育所：保育室、遊戯室
対象	1 歳から5 歳までの園児 かがみうら保育所 10 人 相差保育所 26 人
講師	森のせんせい：久保田勝典氏 森のせんせい：上長野ゆみ氏 浦中浩一氏 平尾晃一氏
備考	鳥羽市 森林環境教育・木育事業

【先生のコメント】 子ども達だけでなく職員も、改めて地域の自然（海と山）に目を向けるきっかけとなり、海辺や山、竹林での遊びの機会が多くなりました。その中で子ども自身のやる気や挑戦してみようとする気持ちが増えてきていると感じています。山に散歩に出かけた時に、子どもから必ず海が見えたことや海の様子を子ども自身が話してくるなど、「森と海のおはなし」は子どもの中にしみこんでいるように感じています。



# 23

## みて、さわって、森のわくわく体験事業

にしきお 錦生保育所・赤目保育所・桔梗南幼稚園・おやど 大屋戸保育所・こもはら 薦原保育所・名張幼稚園



(大屋戸保育所) ぶんぶんごままし



(錦生保育所) ぶんぶんごま作り



(赤目保育所) 森の中で



(名張幼稚園) 森の遊園地—ぶらんこ



(薦原保育所) 森の遊園地—ロープの綱渡り



(桔梗南幼稚園) 森の遊園地—ハンモック

### ねらい

・自然物をつかった制作や上野森林公園内の探索を通して、森林に興味関心を持つ素地を育む

### 取組内容

「三重県上野森林公園」に行き、木の枝や幹を輪切りにしたプレートを使って「ぶんぶんごまづくり」を体験しました。小さな穴に紐を通す作業や、ぶんぶんごまを回すにはちょっとしたコツがあり、それをつかめた時の達成感は格別だったようで、うれしそうに笑顔で友達と一緒に回し合う姿が見られました。制作の間には、年輪により木の年齢がわかることや、木の種類により香りが異なることなども教えてもらいました。

また、落ち葉を踏みしめる感触を楽しみながら、道中森の中を探索。どんぐりの木についての話を聞いたり、同じ種類の木を探しながらどおり着いたという姿が見られました。森の遊園地では、ハンモックや木のブランコ、ロープの綱渡りや松ぼっくりの釣りなど夢中で遊び、森の中で「みる」「さわる」「かぐ」「きく」「試す」を目いっぱい楽しめた一日でした。

内容	・森のお話 ・ぶんぶんごま作り ・森林体験
時間	各園 195 分
場所	三重県上野森林公園
対象	錦生保育所 9 人・赤目保育所 20 人・大屋戸保育所 36 人・薦原保育所 15 人・桔梗南幼稚園 33 人・名張幼稚園 24 人
講師	森のせんせい：三重県上野森林公園
備考	「みえ森と緑の県民税市町村交付金」を活用した市事業「みて、さわって、森のわくわく体験事業」

【先生のコメント】 カサコソ・カサコソ。ザクザク・ザザー。木々の間からのそよ風を心地よく感じ、森の香りを胸いっぱい吸い込む。

子どもたちが一番喜んだのは「森のゆうえんち」での実体験でした。木のブランコやハンモックで揺れやゆったりと包み込まれる感触を十二分に味わった子ども達。

歩く度にアスファルトとは違う柔らかな土の弾力が足の裏を押し返す。「あっ、どんぐり、みつけた。」「根っこが飛び出してるよ。気をつけて。」子どもも森も元を迎れば自然の賜物。森との一体感は格別。自然の中で体を思いっきり動かして遊び、気持ちよく普段できないあそびを楽しみました。どんぐりから出てくる幼虫が「ぞうむし」になるということも教えていただき、とても驚いていました。自然がいっぱいの森林公園で、子どもたちは自ら自然に関わってり着いたという姿が見られました。子どもからは、「また来たい」「お家の人と来るわ」というような声が聞かれ、次も楽しみにしている姿が見られ、何度も訪れたい、身体記憶となって残っていく森林公園でした。

ぶんぶんごま作りでは、森のせんせいに教えていただいて自分で作ったということもあり、回せるまで教えてもらいながら回す姿や、使う木の香りや年輪について関心を持ったり、行ったことのない場所へ園単位でバスに乗って行けた事は、子ども達にとってもとても印象に残る体験で、自然の中でいるんな実体験ができ、新たな発見や経験をさせていただき、この森林公園でしか味わえないことばかりでした。「見て」「ふれて」「かいで」「遊んで」木の大きさ、温かさ、森の中の気持ちよさを実感し、思い切り楽しみました。

# 24

## 木について知ろう

桑名市 ひまわり学童クラブ



### ねらい

- ・木にふれることにより、木の良さを体感し木に親しむ

### 取組内容

桑名市の石取祭や伝統工芸品などから、太鼓に使われているケヤキの木はどれか、かぶら盆に使われているウルシの木はどれかといった樹種についての問題や、員弁川の上流にある山脈はどれか、スギとヒノキの違いについてなど地域の森や林業にまつわる森のクイズを通じて楽しく身近な森や木について学びました。

木製遊具や木のおもちゃでの遊びでは、森のせんせいからおもちゃの遊び方を教えてもらい楽しむ姿がありました。ふるさと三重かるたを使って児童が絵札を取りながら、「いい香り」と木の札の香りを感じる様子が見られました。

丸太切り体験では、森のせんせいからノコギリの使い方を聞き、1人ずつ丸太切りを体験しました。切り取った円盤はキリで穴をあけてメダルにしたり、ドングリや花、リボンをつけてオブジェに仕上げました。森のクイズを通して地域の森林について学び、森を身近なものとして親しみを感じ、木を使ったクラフトでは木の質感や香り、木のぬくもりを感じてもらえる良い機会となりました。

内 容	・森と木のお話 ・木のメダル作り
時 間	2 時間
場 所	桑名市立日進小学校の体育館
対 象	1～6 年生 31 人
講 師	森のせんせい：林業女子会@みえ 森のせんせい：館俊樹氏 森のせんせい：向田恵子氏
備 考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 身近な木や山の話を知り、小さい子も集中して聞くことができました。丸太切りでは、ノコギリの使い方や節に当たると堅いということを体験することができました。今回の出前授業では木に実際にふれ、ぬくもりを感じたり、作ったり楽しく学ぶことができました。



## 森林環境教育・木育のサポート



学校や保育園・幼稚園、学童保育などで取り組まれる森林環境教育や木育の活動にかかるサポートを行います。

### ●主なサポート内容

- ・「出前授業」の実施
- ・指導者「森のせんせい」の紹介
- ・授業を行うにあたっての相談対応
- ・授業の組立やプログラム作成のお手伝い

### 「出前授業」

これから森林環境教育や木育を始めたいという学校等を対象に出前授業を実施しています。はじめの一歩にご活用ください。



### 森づくりのつながり

「森のせんせい」のネットワーク構築や、座談会の開催、森林環境教育や木育、森づくり活動を行う団体との連携を行います。

### 物品や資機材の貸出

森林環境教育や木育に活用できる道具・遊具や、森づくり活動に必要な資機材の貸出を行います。

#### ●貸出物品の一例

- ・ボールプール「もりぼーる」をはじめとする木製遊具
- ・ヘルメット、チャップスなどの安全装備
- ・ハンディGPSなど測量用具各種



### 「ミエトイ・キャラバン」

木育を多くの方に体験していただくために、三重県の木を使った木製遊具などを出展する

「ミエトイ・キャラバン」を行っています。

## 指導者の育成

各種講座を通じて、森林環境教育や木育の指導者の養成や、「森のせんせい」登録者のスキルアップを図ります。



### ●講座の内容

- ・「森林環境教育指導者養成講座」の開催
- ・「森のせんせいスキルアップ講座」の開催
- ・「学校教職員森林環境教育研修」の開催
- ・「木育指導者養成講座」の開催

# みえ森づくり サポートセンター

### イベントの開催



広く森林環境教育や木育の取組を伝えるための「場」として、また指導者の実践の場として、各種イベントを開催します。

#### ●イベントの一例

- ・木の遊具やおもちゃで遊べる「ミエトイ・キャラバン」の開催
- ・自然観察や木工体験など「森の学校」の開催
- ・「こども森の写真教室」の開催
- ・「みえの森フォトコンテスト」の開催





表紙の写真「緑のレース編み」  
第6回みえの森フォトコンテスト  
中学生以上の部 入賞作品



【発行】 三重県農林水産部 みどり共生推進課

【編集・お問い合わせ】

みえ森づくりサポートセンター

三重県津市白山町二本木3769-1 三重県林業研究所 交流館内

TEL:059-261-1223 FAX:059-261-4153 mail:miemori@zcztv.ne.jp

web <http://www.zcztv.ne.jp/miemori/> facebook <https://www.facebook.com/miemoridukuri/>

Instagram <https://www.instagram.com/miemoridukuri/>

この事例集は、「みえ森と緑の県民税」を活用して作成しました。